

1 学校として目指す授業

主体的・対話的で深い学びを実践し、児童が学習の見通しをもち、「できた」「分かった」「楽しい」を実感する授業（学びづくり）

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
<p>・国語においては、全設問において東京都・全国の正答率を上回った。特に昨年度と比較し、「書くこと」の正答率が上昇した。引き続き「思考・判断・表現」の力の伸長を目指し、授業改善に取り組む必要がある。学校として、下位層児童の学力定着を目指し、課題提示の仕方を工夫し、家庭学習での補充に力を入れていく必要がある。</p> <p>・算数においては、「数と計算」および「データの活用」では東京都・全国の正答率を下回った。計算の仕方を考察したり、求め方等を説明したりする力の伸長を目指す必要がある。</p>	<p>・比較的規則正しい生活が遅れている児童が多い。また、「将来の夢を持っている」、「自分にはよいところがある」の設問に対しても肯定的な回答が8割以上であった。放課後や週末の過ごし方についても、家族や友達と過ごす傾向にあり、家庭的には安定していると言える。その一方で、読書習慣がなく、テレビやゲームの時間が多い児童も増加傾向にある。</p> <p>・学習面において、学習する意味を見出し、学習意欲が高い児童は多いが、学校以外での学習時間の長さには大きな個人差がある。</p>

(2) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
<p><体力テスト></p> <p>握力や20mシャトルランの結果において、全国平均を下回る学年が多かった。体育の授業を中心とし、意図的に握力、持久力の向上を目指すための活動を行う。また、休み時間の校庭遊びや元気アップ月間の充実を通し、運動量を確保する。</p>

3 児童の学力・学習状況等の課題

単に「知識・技能」の定着を図るだけでなく、日常生活と関連付けながら「思考・判断・表現」する力を伸ばしていくことが課題である。また、下位層児童に対しての個に応じた指導・支援の充実を図るとともに、中間層の引き上げを行っていく必要がある。そのためにも、確かな学力の向上を目指し授業改善を行い、特に児童が主体的となり問題解決を図ろうとする学習意欲を引き出すような課題提示・教材の工夫を引き続き行っていく必要がある。また、個別の学習指導や家庭学習などでの補充が必要な児童に対して、引き続き支援が必要である。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

記述式回答に少なからず抵抗を示す児童がいるため、学習過程の中で「書く活動」を意図的に設定し、日常的に自分の考えを表現する場を設定する。また、自分の考えを他者と共有し、考えを深めていく活動を通して、「思考・判断・表現」の力を伸ばしていく。個別最適な学び・協働的な学びを充実させるためにも引き続きICT機器を効果的に活用していく必要がある。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価		
低学年	・平仮名やカタカナ、漢字が文章の中で使えるように、作文や日記等の指導を通して繰り返し練習させ、基礎・基本の定着を図る。また、自分の考えを表現するために、ペア交流の時間を日常的に取り入れる。				・数学的活動を通して、見方・考え方を働かせ、表現する場面を設定する。ICT機器を効果的に活用する。				・植物や生き物と関わる活動、昔遊びなど体験を通して学びの充実を図る。		・少人数で発表したり、曲想や鑑賞で感じたことなどを発言したりする場面を設定する。		・造形的な視点をもって楽しく発想や構想ができるように、自他の作品を対話しながら鑑賞する活動を効果的に取り入れる。				・遊びの中で、様々な動きに楽しんで取り組めるように、場やルールに工夫のある活動を多く行う。				・教材の登場人物の心情や問題場面を考慮することができるように、発問を工夫する。			
中学年	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫したり、ペアや小グループで交流したりできるようにする。また、図書や朝読書の時間を活用し、読書習慣の定着を図る。		資料から気付いたことを共有したり、考えを広げたり深めたりするために、対話的活動を意図的に増やす。社会的事象を自分事とするために、まとめの段階では、自分の主張をつくることを重視する。		授業の導入等を活用して基本的な計算方法を身に付ける。文章問題等の立式の際、事象を図化した数直線で表したりと考えを説明する場面を意図的に設ける。		・経験などを思い出しながら根拠を明確にして予想し、授業と関連付けられるよう話し合い活動を効果的に取り入れる。 ・理解を深めるために、結果からわかったことや考えたことを書く時間と共有する時間を十分に取る。				・曲想についてや鑑賞などで感じたことを発言できる機会を増やし、多様な価値観に触れる時間を充実させる。 ・デジタルワークシートや録音、録画機能などを用いて、表現の幅を広げきかけとする。		・造形的な視点をもって豊かに発想や構想ができるように、自他の作品を対話しながら鑑賞する活動を効果的に取り入れる。 ・題材ごとに振り返りシートを用いて、自身の造形活動を記録し、次の表現へと繋げていく。				体を動かす楽しさや心地よさを味わいながら、体の基本的な動きを繰り返し取り組む活動や全体で動きを共有する活動を取り入れる。動いて考えたことを次の活動で生かせるように授業設計をする。				内容に応じてICT機器を活用し、他者と対話したり協働したりしながら、さらに主体的に自分の考えを深める場を設定する。また、事故を見つめる時間を十分に設ける。			
高学年	日常的に書く活動を取り入れ、ペアや小グループで交流したり、全体で発表したりする時間を設定する。また、友達と共有することで自分の考えを深めたり、よりよい表現を吟味したりする時間を取り入れる。		・資料を多角的・多面的に読み取り、情報共有する機会を多く設ける。また、内容や場に応じてICT機器を効果的に活用する。 ・課題に対する自分の考えを、根拠をもとに述べる力を身に付ける。		基礎・基本を確実に身に付けるため、授業の導入時に基本的な計算や公式を振り返る時間を設定する。文章問題等の立式の際、考えを説明する場面を意図的に設ける。1時間ごとに学習の振り返りを行い、学びの定着を図る。		結果を基に思考する力を伸ばすため、実験する時間を十分に確保し、得られた結果から考察ができるようにしていく。また、ICT機器を活用して実験結果や考察を交流できるようにする。				・鑑賞や音楽づくりでの発言の機会や振り返りの時間を充実させる。 ・録音、録画機能を活用して振り返り、デジタルワークシートを用いて音楽づくりなどで表現を広げる補助として活用したりする。		・造形的な視点をもって創造的に発想や構想ができるように、自他の作品や美術作品を対話しながら鑑賞する活動を効果的に取り入れる。 ・題材ごとに振り返りシートを用いて、自身の造形活動を記録し、次の表現へと繋げていく。		・実習を重視し、作業を繰り返すことで、技能を習得できるようにする。 ・学習した内容を実際の生活で試してみたいという意欲を喚起させるために、児童の興味を引くような教材を提示する。		・ICT機器を効果的に活用しながら、指導の個別化と学習の個性化を図ることで、自己に適した課題をもって積極的に運動に取り組むことができるようにする。				・目標表現を聞かせたり発話させたりする機会を増やし、目的意識をもった言語活動を充実させる。振り返りを4段階評価で視覚的に分かりやすくすると同時に、成果と課題を文章でも書かせて次時につなげる。音声の聞き取りやパワーポイントを使ったスピーチなど必要に応じてICTを活用する。		友達の考えと比べながら自分の考えを深める場面を意図的に設ける。自己を見つめる時間を確保する。	